知られざる赤水の天文学①

寄稿

長久保赤水顕彰会長　佐川　春久

当会では10月20日に、川口和彦氏著『長久保赤水の天文学』を出版した。高萩市赤浜の農家出身の長久保赤水（1717～1801年）は、日本地図『改正日本輿地路程全図』（通称・『赤水図』）の製作者として注目されるようになってきたが、天文学者としての業績はほとんど知られていない。

この『長久保赤水の天文学』の帯原稿を書いた自然科学研究機構国立天文台の渡部潤一氏は「長久保赤水の天文学はこれまで大きな功績としては、それほど認識されてこなかった。その赤水の天文暦学に関する著作の代表は、『天象管闚鈔』であり、赤水が地図作りの過程で学んだ天文暦学の知識を広く世に知らしめんが為の工夫が随所に見られる」とした。

さらに「なによりも綴じ込まれている回転円盤星座盤の仕掛けはいわば日本で初めての星座早見盤といっても過言ではないだろう。長久保赤水は、もともと出自が農民だったためあくまで庶民が使いやすいようにポケット版として、この回転円盤星座盤を考案したという著者川口氏の見解は誰しもが納得できるだろう。」と推薦いただいた。

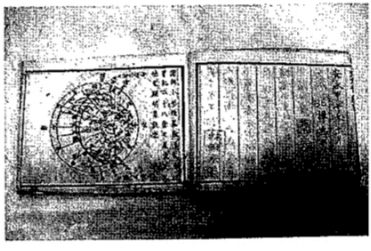
また、同書40頁では天文学者、井本進氏の言葉を紹介。「安永三年『天象管闚鈔』と題する小型の冊子（横本）が出たが此の中に星図が回転式に見られる様な仕組みに載せられている。（中略）これは水戸の長久保赤水の作である。しかし回転式星図は之を以て嚆矢（こうし＝始まり。起源）とする。（中略）」

日本初の星座早見盤

井本はさらに「澁川春海について新しき試みを企てたのは長久保赤水であった。彼の回転式星図こそは現代においても実用される巧妙なメカニズムなのであって、彼の地図作成上の著しき業績とともに讃えられるべきものである。」とある。ついに天文学者、長久保赤水の偉業が現代によみがえったのだ。

巻末には特別付録として〈原寸大赤水式星座早見盤を作ってみよう。今日からきみも江戸時代の天文学者になれる！〉。その作り方と使い方も掲載した。ぜひ自分の携帯用星座早見盤を作り、一度、夜空を見上げてほしい。赤水もそう願ってこの星座早見盤を作ったと思う。なお、長久保赤水顕彰会のHPでも原寸大赤水式星座早見盤を紹介し、一人でも多くの方に江戸時代に考案された道具を実体験してほしいと願っている。

（次回は11日掲載）



茨城県指定文化財の長久保赤水著『天象管闚鈔』高萩市歴史民俗資料館所蔵（長久保赤水顕彰会寄贈）

■日立支社
日立市
高萩市
北茨城市
☎0294(22)4466
ファクス(22)4480